# 私は生きる、津波で死んだ家族の分まで

(宮古市 90代 女性)

私は昭和8年の津波(昭和三陸津波)を知っています。昭和8年3月3日でした。 夜中に地震が起きて、何が何だか分からないまま、近所の人と一緒に山へ逃げました。

波が来て、みんなさらっていきました。家族も家も。小学校5年生の時です。実 家は商家で、何不自由なく育っていたのに、一夜にしてひとりぼっちになりました。

それからは宮古の親戚にお世話になったり、北海道の果てまで行ったりして苦労しました。すがる人もなく、何度天井を見つめて夜を過ごしたかわかりません。それでも、「ふるさとに帰りたい」の一心で辛いことも我慢しました。津波で死んだ家族の分まで生きようと思いました。

ふるさと田老に戻り、結婚して子どもを育てあげ、幸せな生活を送っていたとこ ろへ、また、あの時と同じように大津波がやってきました。

田老にも今回の津波で親を亡くした子どもたちがいっぱいいます。私は、その子 たちに「頑張れ、自分のためだ。頑張るしかない」と言いたいです。



### 地震後は地域で水汲み手伝う

~今では仲良くなった近所のおじいちゃん~

(釜石市 震災当時小学5年 男子)

その日の学校は早帰りでした。お母さんも仕事先で、家には誰もいないので、友達と一緒にいつものように父さんの工場の方に帰りました。ランドセルを下ろして、「ただいま! |といった瞬間に地震が来ました。工場は道路一本挟んですぐ海でした。

すぐに事務所の机の下に隠れたけれど、書類は散らばるし、ガラスもバリバリ割れて飛び散り、手をつくと手につきささるような感じでした。じいちゃんとお父さんは留守だったので、すぐにお母さんの仕事先まで行って、一緒に高台にある家に帰りました。

津波の被害もなかったので避難所へは行かず、夜はろうそくとかを使って過ごしました。家では何もすることがなかったから、近所のお年よりの水くみとかを手伝いました。

なので、今では、近所のおじいちゃんおばあちゃんから登下校中に「おはよう」とか「今、部活延長なの?」とか声をかけてもらえるようになりました。



### 津波はまるで大きな川のよう

~大きな木も根こそぎ流された~

(名取市 60代 男性 農家)

津波はまるで大きな川のようになって、畑のビニールハウスやドラム缶、消防ポンプやトラックなどそこにある物すべてをのみこみながら、私たちの目の前をゴーゴーと流れていきました。大木が流されるほどの強い流れでしたからね。近所の娘さんは泳いで何とか助かりましたが、お父さんお母さんは津波の犠牲になりました。ちょうどその日は、レタスとチンゲン菜の初収穫の日だったのです。うちの奥さんが採った野菜を車に積んで家に帰ったところで、やってきた津波で車は流されました。それから3、4日して、やぶに引っかかっているうちのバンタイプの軽自動車が見つかりました。

車は使いものにならなくなりましたが、野菜を入れていたコンテナは重ねていたので、下の段は泥になっていたけれど、上の段は野菜もきれいでした。で、みんながそれを「野菜がなくなったから」と言ってもらっていきました。うちは野菜中心の食事ですから畑がやられるとどうにもなりません。当時は店にも何もなくて大変でした。

海から3キロも離れているこの地域にまさか津波がくるとは思ってもいませんでした。あれから2年半、震災当時の苦労話をしても、ここから少し離れた駅周辺は全然被災していないから話が合いません。もう風化しつつあるんです。



## マンションの 1 階だけが床上80センチ

~水害きっかけに自主防災組織で水位センサー設置~

(宇治市 70代 男性 地区役員)

私のところのマンションは、ハザードマップで5メートル以上の浸水の可能性が ある地域、いちばん低い水のたまり場のようなところに建っています。そして、今 回の水害では、1階が床上7、80センチの浸水、2階以上は何ともないというよ うに明暗が分かれました。1階の部屋の中は物がプカプカと浮いている状態でした。 水が少し引き始めたころ、私は1階に降りて行き、泥水をかき出す作業を手伝い 始めました。それを見て、だんだんと他の人も手伝いに来るようになり、配電盤の 水没でポンプが使えなかったので、数時間、手作業で泥水のかき出し作業を続けま した。

非常に関係の希薄なマンションですが、この経験を『災い転じて福となす』とした いと、103世帯のみなさんに呼びかけて、自主防災組織としての防災委員会を作り、 いろんな勉強をしながら少しずつ防災意識を高めています。

それと、水をキャッチしたら警報が鳴るように、敷地内で一番低い入り口の床か ら20センチ上に水センサーをつけました。何らかの形で危険を知ることができれ ば全館放送ができるし、防災委員会がすぐに駆けつけて、土のう積み作業などを開 始できますからね。



### 水害の水は洗い流せ

~ 20年前の経験活かし、お湯を浴びてもらう~

(奄美市 60代 女性)

私は20年前の台風も経験しています。今回の大雨では、私は運よくカヌーに乗 せてもらって避難したので、体が水に浸かることはありませんでした。

その日の夜は避難先の集会所は人でいっぱいになってしまったため、何人かで水 に浸かっていないお宅に泊まらせてもらいました。

その時はまだ水道も出ていましたし、ガスが使えたので、まずお湯を沸かして、 避難した人で水に浸かった人たちにお湯を浴びてもらいました。

それは大事なことなんです。なぜなら、20年前の台風当時、私は面白半分で水 に浸かって写真を撮ったりしていたのに、体を洗わずにそのまま寝てしまい、後で 体がかゆくなって大変な思いをした経験があるからです。

水害であふれる水は、雑菌が多くてとても汚いものなんですよね。



# 一日前プロジェクト みんなでやってみよう!

-簡単な手順を紹介します-

まず、過去の自然災害(地震、水害等)の中から対象を選ぶ



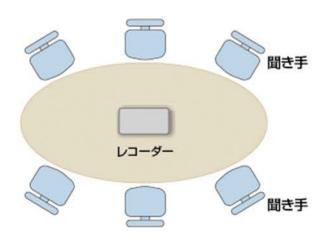
その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける



みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間



なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、 体験したり感じたことを話し合ってもらう ※話し手は、2人~4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける



テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする

- ※物語は、300字~500字程度で、できるだけ語り口を残して編集
- ※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的



作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省